

仙台市博物館協議会（令和元年度第2回）会議録

1. 会議の年月日 令和元年7月23日（火）
2. 開会及び閉会の時刻 午後3時から午後5時まで
3. 出席委員の氏名（五十音順・敬称略）
尾崎彰宏、菊池勇夫、佐川正敏、佐藤憲子、伊達泰宗、長岡龍作、濱田淑子、森美智子
4. 説明者の職及び氏名
館長＝高橋泰、副館長兼学芸普及室長＝高橋あけみ、庶務係長＝高橋薫、
学芸企画室長＝樋口智之、指導主事＝片寄角洋、学芸企画室主任＝水野沙織、
学芸企画室主事・記録＝寺澤慎吾
5. 議題及び報告並びに議事の要旨
 - (1) 会議録署名委員の選任
会長と長岡龍作委員とする。
 - (2) 報告事項
 - ①令和元年5～6月の観覧者数について
〔事務局からの報告〕
「資料1」のとおり。
 - ②特別展「いつだって猫展」の結果報告について
〔事務局からの報告〕
「資料2」のとおり。うちの猫自慢の写真枚数について、最終的には332枚であった（前回協議会の中間報告では概算で345枚としていたが、修正）。
〔委員からの意見等〕
観覧者アンケートに「イスがあるとよかった」とあるのは、展示を見ていて疲れるということか。
〔事務局からの回答〕
やはり疲れるということだと思われる。展示作品が多い場合などはイスを置くスペースを確保するのが難しいが、今後の課題としたい。
 - ③企画展「戦国の伊達氏—種宗から政宗へ」の中間報告について
〔事務局からの報告〕
「資料3」のとおり。
〔委員からの意見等〕
和紙を実際に触れられるというのは面白い。
〔事務局からの回答〕
若い学芸員による新たな試みであり、そのような感想を頂き有難い。
〔委員からの意見等〕
伊達家がこの時代に突出した理由、先見性というのが何であったかが、展示を見て一目で理解できなかった。それが分かるとより面白い。

〔事務局からの回答〕

個々の資料の解説では触れられているが、全体としてそうしたものが提示できていなかった。猫展でもそうだったが、展覧会で来館者に訴えたいことを分かりやすく示せるような展示というのは今後の課題としたい。

〔委員からの意見等〕

導入の「文書の見方」が分かりやすく良かった。（展示全体として、）良いものがありすぎるため絞ってみることが難しい。もう少し的を絞った展示や解説などがあってもよいように思う。例えば、教科書にも載り、記念講演会のテーマにもなっている「塵芥集」は、その意義や、個々の条文の意味などについて、踏み込んだ解説があってもよいのではないか。

〔事務局からの回答〕

「塵芥集」の展示箇所では、バナーをつり下げるなどして展示の工夫はしたものの、資料を深く読み込めるような空間作りはなかなかできていなかったように思われる。

〔委員からの意見等〕

今回の企画展のような館蔵品中心の展示をもっとやってもらいたい。バナーが展示の各コーナーを効果的に区切る役割をされていて良かった。

ただ、外国との関わりについて、「山形文様陣羽織」で終わってしまうのは残念。慶長遣欧使節へつなげて欲しい。

〔事務局からの回答〕

確かにテーマ展示室Ⅱの慶長遣欧使節関係資料へつなげられれば良かった。今後の課題としたい。

④市史活用推進事業及び資料レスキューについて

〔事務局からの報告〕

「資料4」のとおり。

⑤教育普及事業について

〔事務局からの報告〕

「資料5」のとおり。

〔委員からの意見等〕

キャンパスメンバーズの5月、6月の利用者数が増加しているのは、猫展が影響しているのか。

〔事務局からの回答〕

猫展およびGWの10連休が影響しているものと思われる。

〔委員からの意見等〕

夏休み自由研究サポートプロジェクトは具体的にはどのように運用しているのか。

〔事務局からの回答〕

「スタディシート」の利用や、「新聞用紙」を用意して学習内容を書き込めるようにし、成果が見えるような形にしている。子どもから質問があった場合は、指導主事や学芸員が対応している。

⑥その他

〔事務局からの報告〕

特になし。

(3) 協議事項

①企画展「仙台市市制施行130周年記念 やっぱり絵図がすき！」の開催について

〔事務局からの報告〕

「資料6」のとおり。

〔委員からの意見等〕

絵図は面白いテーマである。美術史の視点からも興味深い。開催趣旨からは、絵図が現実を忠実に写したものである、という印象を受けるが、古い絵図(中世の絵図など)は、ある意図をもって空間を再構成したものといえる。そのような中世と近世以降の絵図の違いなども展示で説明できると良い。

〔事務局からの回答〕

今回の展覧会では、近世以降の絵図のみを取り上げるが、絵図はそれぞれ目的があって作られているものであるため、それを展示で伝えたい。また、測量技術の変遷などもあわせて示すことができればよいと考える。

〔委員からの意見等〕

仙台の絵図が他の地域の絵図と比べてどのようなレベル(ルーティーンで作られたものか、何か新しいものがある絵図か)にあるのかは展示に反映されるのか。

〔事務局からの回答〕

今回の展示では仙台の絵図のみを展示するため、展示において他の地域との比較というのは難しいものの、時代による絵図の違い(測量技術の違いや絵師の違いなど)は展示で示すことができると考えている。また、個々の資料解説では他の絵図にも触れることになるように思われる。

〔委員からの意見等〕

地図はデフォルメされているため、見る(読み解く)ことが難しい。そのため、方角や目印を明示するなど、丁寧に説明することが大切である。また、地図はその土地の歴史を表わすものである。来館者が分かるものが示されていれば、自分たちの暮らしと結びつけることができ、愛着も生まれる。

〔事務局からの回答〕

ご意見をいただき有難い。絵図上で現在も残っているものがどこなのか、を展示で明示したい。

〔委員からの意見等〕

寺院や神社がこれにあたるので、そうしたものを示して頂きたい。

〔会長からの提案等〕

委員の方々から展示についてたくさんの意見を頂いた。このように展覧会の前に委員の方々の意見が示される場があるとよい。

②大規模改修について

〔事務局からの報告〕

「資料7」及びパワーポイントでの説明、通常のガラスと高透過ガラス実物の提示。

〔委員からの意見等〕

収蔵スペース問題は県美術館でも課題になっている。ここは、県と市、博物館と美術館という枠組みを外して考えられないか。

また、レストランやミュージアムショップをもっと人々の憩いの場として充実させ、行ってみたい博物館にすることで、美術館と合わせて仙台に来ると面白い、と思わせるよ

うに、人を呼べるモデルケースとなるようにできないか。

〔委員からの意見等〕

図書や資料は、追廻にできる施設に（あるいは、追廻の一角に建物を建てて）一部移してはどうか。同様の課題をもつ博物館と美術館が垣根を越えて連携して解決すべきだと考える。

〔委員からの意見等〕

（収蔵スペースの問題については、）総合展示室の年表の部分をケースにして、資料を展示し、常設展を充実させれば少しでも解消されるのではないか。

また、世界記憶遺産の資料がある、伊達家のことが分かる、というのがこの博物館である。（仙台の歴史を）すべて網羅する博物館である必要はなく、他の施設に任せてもよい部分があるのではないか。

〔会長からの提案〕

協議会の開催は年4回から年3回に減らしたばかりだが、今回欠席の委員も含めて皆で機能向上、特に収蔵スペースの問題について知恵を出し合う機会を作ってはどうか。

③その他

〔事務局からの報告〕

特になし。

(4) その他

①その他

〔事務局からの報告〕

次回の協議会は現在の予定では、令和2年2月4日となっているが、委員長より収蔵スペース問題について話し合う機会を、という提案があったため、検討をさせていただきたい。